

ピックルボール



1 概要

ピックルボールは 1965 年にアメリカのシアトルで生まれたテニス型のスポーツであり、木製のラケットと中空穴あきのプラスチックボールを使用するため、力任せのプレーよりもショット・作戦などが楽しめる手頃なレクリエーション・ゲームです。

2 用具

木製ラケット（卓球用より一回り大きい）

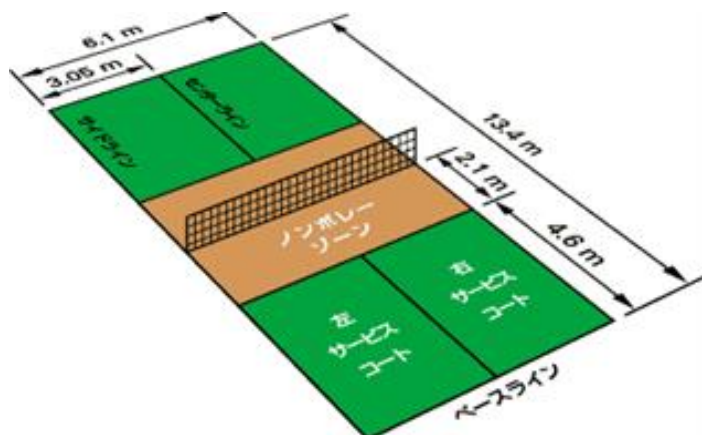
ピックルボール用プラスチックボール（直径 8 cm ほどの中空穴あきボール）

ネット・支柱

3 コート

※右図参照

ネットの高さは中央 86.3cm、両端 91.4cm



4 人数

シングルス、ダブルス

5 ゲームの進め方

(1) ダブルス

①サーブ権の決め方

- ・コイントスをするかじゃんけんで勝ったチームがサーブを打つかサイドを選ぶようにする。サイドを選択した場合、相手チームのサーブから始まる。

②得点と勝敗

- ・サーブ権があるときのみ得点することができる。
- ・ライン上に落ちたボールはセーフ（イン）である。サーブをしているプレーヤーは自チームがフォールトするまでサーブを続ける。
- ・1 ゲームの勝敗は 11 点先取で決まる。ただし、2 点リードしていなければならない。

③1 試合のゲーム数

- ・1 試合は原則 3 ゲームマッチ、2 ゲーム先取したチームがその試合の勝者となる。

④サービス

- ・サービスを打つ前に、得点状況と何人目のサーバーなのかコールをする。
- ・サーバーはベースライン後方よりサーブをおこなう。
- ・サーブはアンダーハンドで行う。ラケットはウェストより下で振らなければならない。
- ・ボールをバウンドさせてからサーブ（ドロップサーブ）を打ってもよい。
- ・サーブはコートを対角線に横切ってノンボレーゾーンを越え、相手のサービスコートに入らなければならない。

- ・サーブは一度だけ行うことができる。ミスした後のセカンドサーブはない。
- ・ボールがネットに触れて相手のサービスコートに落ちた場合はそのままプレーを続ける（レットとしない）。ノンボレーゾーン（ライン上も）に落ちた場合はフォールトになる。
- ・レシーブチームがサーブ権を得た場合、必ず右サイドのプレーヤーがサーブをする。
- ・ゲーム開始時のみサーブ権をもつチームは一人しかサーブすることができない。

⑤サイドチェンジ

- ・ゲーム開始時、及び一方のチームがサーブ権を得たときの最初のサーブは常に右サイドからサービス行う。
- ・レシーブチームがフォールトした場合、サービスチームが1点獲得する。その次のサーブは同じ人がサイドを替えて（右または左に移動）再びサーブする。サービスチームがフォールトした場合は、サーブを行った人のパートナーがサーブを行う。このときサイドは変えずにそのままの状態（左右の位置関係はそのまま）でサービスをする。つまり、得点をあげた時のみペアとのサイドチェンジが生じる。

⑥ボレー

- ・ボレーとは、ボールがバウンドする前に空中にあるボールを打つことである。
- ・ボレーはノンボレーゾーンのラインよりも後ろで行わなければならない。
- ・ノンボレーゾーンのラインを踏んだ状態やゾーン内でボレーするとフォールトとなる。
- ・ノンボレーゾーンのラインよりも後方でボレーしても、勢い余ってノンボレーゾーンに入ってしまった場合、フォールトとなる。

※ノンボレーゾーンに入ってはいけないわけではない。バウンドしたボールはノンボレーゾーン内でも打つことができる。

⑦ツーバウンドルール

- ・サービス直後の1ラリー（往復）は、ボールをバウンドさせてから打たなければならない。レシーブチームはサーブされたボールを、サービスチームはリターンされたボールを必ずバウンドさせてから打たなければならない。これをツーバウンドルールという。

⑧その他フォールト（反則）の例

- ・2回バウンドしたボールを打つ。
- ・ツーバウンドルールを守らない。
- ・ラリーが続いている最中に、プレーヤーのパドルや身体、ウェアがネットまたはポストに触れる。

(2) シングルス

次の場合を除いてダブルスのルールがすべて適用される。

- ・シングルスの場合は、自身の得点が0か偶数の時には右サイドからサーブする。奇数の場合は、左サイドからサーブする。

